

平成27年度九州大学大学院法学府
修士課程入学試験問題（春季）

刑 法

以下の問題④から問題⑩までの4問のうち、3問について解答しなさい。なお、どの問題について解答したのか、きちんと記号を解答用紙に明記すること（明記の無い場合には大幅な減点となる）。

問題④

医師LはMの子供Nが角膜移植を必要としている状況にあることを知っていた。その上でLは、「Nにあなたの角膜を移植しますので、移植のための角膜提供に同意して頂けますか。執刀は腕の確かなO医師が行います。」とMに告げた。しかしLはMの角膜をNに移植するつもりなど初めから無く、角膜提供を待つ別の患者Pに移植するつもりであった。Lは、上記内容についてのMの同意を得た上で、医師Oには「Mが患者Pへの角膜提供に同意した」と告げ、それに基づいてOはMに対して角膜摘出手術を執刀した。Oの罪責を検討せよ（特別法違反の点は除く）。

問題⑤

Yは、Xを苦々しく思っているPをそそのかして、Xを殺害することをPに決意させた。しかしYは実際には、Pが力の強いXに返り討ちにあって殺されることを期待して、そのようなそそのかし行為を行なったのであった。そしてこのようなYのそそのかし行為により、PはXに対してナイフで殺意を以って襲いかかったが、Yの予想通り、力の強いXはPのナイフを逆に奪い取って、自分の身を守るためにPを殺害した。XおよびYの罪責を論ぜよ（特別法違反の点は除く）。

問題⑥

B（女性）は、ある洋品店に夫Aと共に買い物に出かけた。数点の服を購入して代金を支払う際に、現金を持ってくるのを忘れ、また自分のクレジットカードも持ってくるのを忘れたことに気づいた。そこでBは、隣にいたAにクレジットカードを借りて、A名義でサインをし、当該服を購入した。なおこの際、店員Zは2人が夫婦関係にあることを察知し、とくに何も言わなかった。BおよびZの罪責を検討せよ（ただし文書偽造については検討しなくてもよい。また特別法違反の点は除く）。

問題⑩

以下の(1)および(2)に解答しなさい。

(1)Yは自宅のパソコンから、そのような意図がないにもかかわらず、インターネット掲示板に同日から1週間以内にJRの駅において無差別殺人を実行する旨の虚構の殺人事件の実行を予

告し、これを不特定多数の者に閲覧させ、同掲示板を閲覧した者からの通報を介して、警察職員を同駅構内その周辺への出勤、警戒等の業務に従事させた。これにより当該警察職員は、通常の業務である警らその他の業務を遂行することが困難となった。Yの罪責を検討せよ。

(2)警察官Pは、Xによる住居侵入・窃盗事件(いわゆる空き巣)の発生を知り、出動したため、当該出動時間において本来Pにより遂行されたはずの警ら、立番業務その他の業務の遂行がなされなかった。Xは住居侵入・窃盗事件の行為の際に、その痕跡がどうしても残る以上、警察官がその捜査のために出動することについて、十分に認識していた。Xの罪責を検討せよ(ただし住居侵入罪および窃盗罪については検討しなくてもよい。また特別法違反の点は除く)。

以 上